

特集 地域の取組と今後の方向

沖縄における特産農作物関連6次産業化の取組と今後の方向

沖縄総合事務局農林水産部食品・環境課長 勢理客安彦

今帰仁村(なきじんそん)における大豆加工品(島豆腐、スイーツなど)の例

<取組の概要>

農業生産法人株式会社あいあいファームは、平成21年2月、沖縄県那覇市を中心にレストランなどの飲食店や食品の宅配事業を営む株式会社アメニティの農業部門として設立され、沖縄本島北部の今帰仁村でレタスなど野菜類の栽培を開始した。

その後、耕作放棄地の借り入れや取得により経営規模を拡大し、柑橘類、大豆、蕎麦等を栽培して作物の複合化を進めている。

平成22年より大豆を使ったスイーツや豆乳アイスなどの開発を行っており、今後、加工場を設置して自社農場で栽培した大豆の加工品の製造・販売を計画している。



島豆腐



スイーツ

<取り組むに至った経緯>

沖縄では、戦前から大豆が生産されており、昭和30年には、作付地6千haで過去最高の7千tが生産されていたが、昭和37年のキューバ危機以降、砂糖の国際価格が高騰したため、急速にサトウキビへの作付転換が進み、その後、大豆の



大豆の栽培状況

生産技術の伝承も途絶えてしまった。現在は、沖縄の島豆腐のほとんどが輸入大豆を使用して製造されている。

あいあいファームでは、沖縄産の大豆で造った島豆腐や味噌、スイーツ、豆料理などを消費者に提供したいという強い思いにより大豆の栽培を開始した。

<取組内容>

大豆の栽培と加工品の開発を進める傍ら、平成21年5月、今帰仁村が廃校活用のため公募した旧湧川小中学校・幼稚園の活用企画に応募し、農業体験や農産物加工体験を行う施設や宿泊施設として活用する企画提案が採択されたことから、同小中学校・幼稚園内に農産加工場等を設置し、大豆加工品の製造に取り組むこととしている。

<取り組むに当たっての課題と対応>

沖縄の土地・気象条件に合った大豆の育種が行われておらず栽培技術も確立されていないことから、沖縄の土地・気象条件に合った品種を選定し、栽培技術のノウハウの蓄積を図るとともに、今年は時季外れの台風により被災したことから、植え付け時期をさらに早める等工夫することとしている。

<行政からの支援内容>

耕作放棄地の借入や取得に当たり、今帰仁村の仲介により円滑に地主と契約することができた。

<今後の展開方向>

地域の農家と連携して大豆の生産拡大と安定生産を図り、旧湧川小中学校・幼稚園内の農産加工場で大豆加工品を製造・販売するとともに、株式会社アメニティに供給するほか、ネットショップ事業の展開も計画している。